

タチアナ タラソワ

氏 名 Tatiana Tarassova
学 位 博士(経済学)
学位記番号 新大院博(経)第29号
学位授与の日付 平成17年3月23日
学位授与の要件 学位規則第4条第1項該当
博士論文名 SMALL ENTERPRISE DEVELOPMENT STRATEGY IN TRANSITIONAL ECONOMY: EVIDENCE FROM RUSSIA
(移行経済における小企業の発展戦略—ロシアの事例—)

論文審査委員 主査 教授 小山 洋司
副査 教授 永山 庸男
副査 教授 高津 斎彰

博士論文の要旨

本論文は全部で234頁で、全6章、付属資料(図表)および参考文献リストからなる。その構成は次のとおりである。

第1章 序論

第2章 小企業の戦略に関する基礎的な理論的概観

第3章 研究の背景—環境の文脈の概要—

第4章 事例研究

第5章 事例研究の内容分析

第6章 結論およびインプリケーション

タラソワさんの問題関心はいわゆる中小企業一般にあるのではなく、小企業(スマール・ビジネス)にある。スマール・ビジネスを彼女は、オーナーによる直接の監督のもとで経営され、支配されている企業と定義する。とくに、社会主義計画経済が破綻した後、市場経済へと移行しつつある経済(「移行経済」)で、スマール・ビジネスが文字どおりゼロからスタートして、どのようにして成功し、成長しつつある企業(「ガゼル」)へと発展するかを明かにすることが研究課題である。

スマール・ビジネスの発展戦略研究の理論的フレームワークを構築するために、多くの英語文献を検討した。彼女のモデルによれば、スマール・ビジネスの発展戦略は競争優位を生み出すことであり、強力な個人(企業家)に由来する。企業家は、変化しつつある環境で生まれるチャンスを求

めるとき、組織が定める企業家のビジョン、目的および目標によって駆り立てられている。このモデルでは、スマート・ビジネスの戦略を「企業家」、「ビジョン、目標、目的」および「資源」が相互作用するプロセスとして把握し、これらが重なり合う部分が大きいほどその戦略は洗練されたものと言える。

フィールドワークでは、ロシア極東の2つの主要都市ウラジオストークとハバロフスクにある6社のスマート・ビジネスにインタビューを行った。これらはすべて1993年から95年にかけて設立されたITサービスの有限会社である。これらのオーナーは、国営企業のシステム・エンジニアや宇宙産業の技術者などの経験を有し、その経験が資源ともなっている。

この事例研究から、スマート・ビジネスの最初の動機はたんに生き延びるためにあっても、ときが経つにつれて、企業家の認識は変化し、市場経済移行と共に生まれたビジネス・チャンスを利用したいという意欲に重なり、シングペーター的な企業家に進化することも可能だと結論づけている。

審査結果の要旨

これまでに、タラーソワさんは現社研紀要に英文論文を2本発表したほか、ロシアの学術雑誌にロシア語論文を2本発表し、昨年11月にはメルボルンでの国際会議『変化する世界におけるビジネスの研究』で報告して高い評価を得ている。本論文はこれらの研究成果を集大成したものである。

本論文は次の点で高く評価することができる。スマート・ビジネスが成長するポイントとして、資源の調達を内部蓄積に依存せざるを得ない状況下にあるスマート・ビジネスが、過去から蓄積された資源や組織能力を利用しながら、将来の成長を視野に入れたとき、新たな資源や組織能力を蓄積すべきだという戦略的視点を示し、それを実際のスマート・ビジネスの実証から導いたことである。こうした資源ベース理論の主張は、これまで中堅企業や大企業を事例として唱えられていたが、本論文が、スマート・ビジネスが産業構造の基盤形成の中心的存在となる移行経済の条件下で、この資源ベース理論の有効性を示したことの意義は大きい。

本人も認めているように、本論文は、調査対象が地理的に限られていること、およびロシア極東という特殊な環境でのスマート・ビジネスを扱っているという点で限界がある。今後、調査対象をロシア全体に広げて、この研究を発展させることが期待される。

以上により、本審査委員会は、本論文が博士（経済学）の学位請求論文として十分な内容をもっていると認定した。